コスモスの中にも

（三鷹小羊・23年10月の園だよりより）

行田小羊の職員が「Aちゃん、この頃泣き方が変わって、どうしたらいいでしょう？」と、事務室へ。「おうちで何か変わった事は？」「ないか？」緊張をほぐすため、何気ない会話でAちゃんに心を開いてもらう。家族の様子を想像する。確かに家庭の事情もあるが、「今の泣き方は前とは違う」と。そのほかに何が？

「アアそうだったのか」と気がついた。Aちゃんは今まで、「おじちゃん」のひざで癒されていた。今は、その膝がない。先生が聞いてくれてもうまく話せない。「Aちゃんの気持ち、分かってよ！」と叫んでいるようだ。

「そうか、おじちゃんのひざがなかったんだ。でもおじちゃんの心はAちゃんの隣にいるよ。ホラ、ここ、いるよ。こっちはイエスさまいるよ。」

Aちゃんは居場所を探していたのか、そうか、そうだったのかと気づく時、Aちゃんにも「大丈夫、大丈夫」の言葉が受け入れられる。

今、おじちゃんが丹精込めたコスモスが、行田の保育園の隣の田んぼ一面に咲き誇って、心を和ませてくれている。何ともいえないホンワカした気持ちになる、コスモスは私の大好きな花。帰りに園長がたくさんお土産にくださり、それを持って電車に乗った。50歳前後の女性のそばに座ると、「いい匂いですね。」鼻のきかない私は「そうですか？」「コスモスだけかしら？もうひとつのにおいが…」ハァ？「香水つけていらっしゃるんですか？」「イイエ」「いい匂いですね。水切りすると生き返りますよね」「ハイ、そうします。」何気ない会話だけど、温かくほのぼのとも幸せ気分、コスモスの花、とってもいい事ありそうな気分。そしてふと思った。おじちゃんは、丹精込めて作ったこのコスモスの中にもいたんだと。

Aちゃんも上を向けば、助けは隣にいるよ。

市川　益子